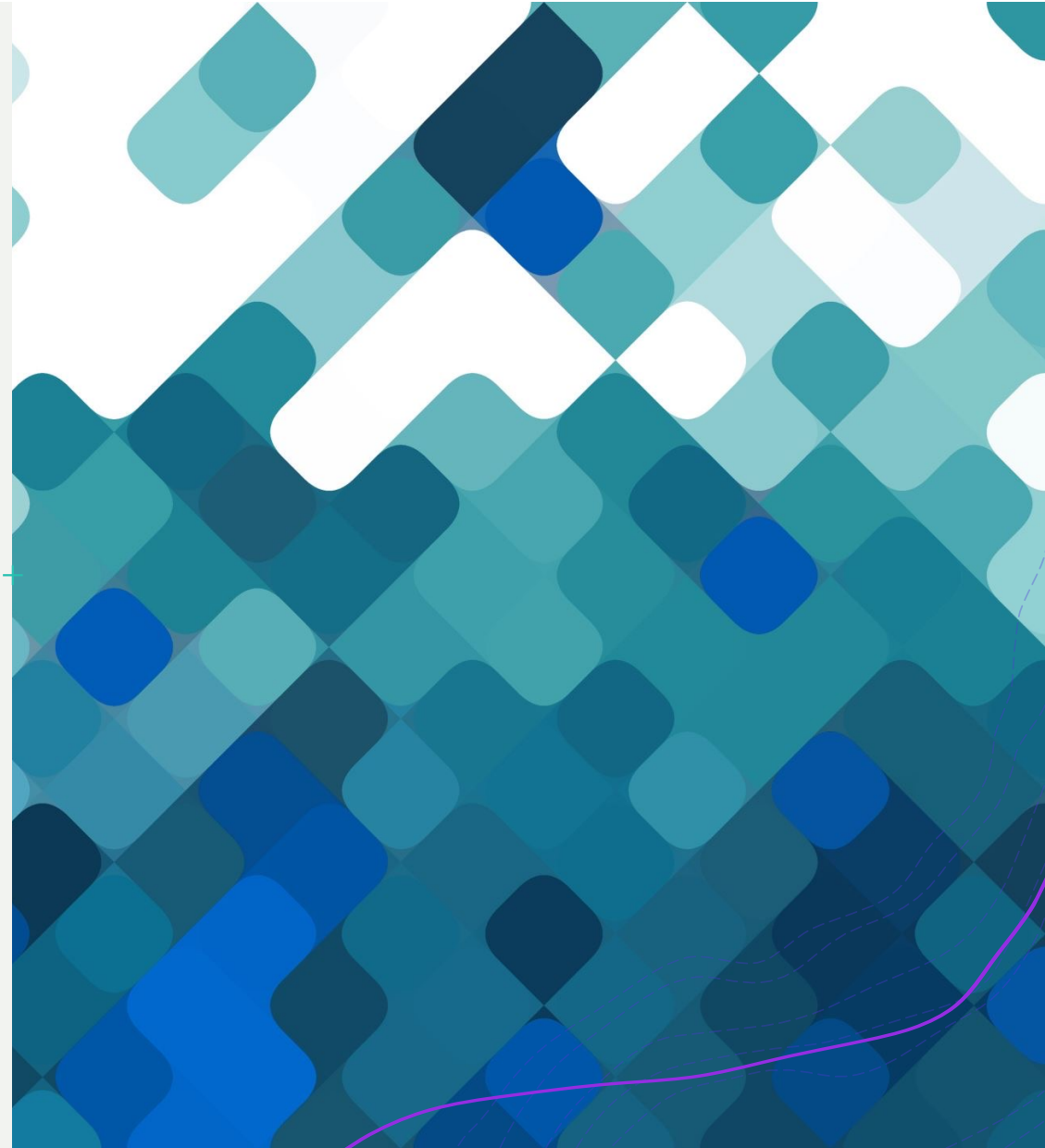


# アレッセ高岡×高岡向陵高校 外国ルーツ生徒への サポートについて

アレッセ高岡 青木由香

(富山県西部教育事務所外国人相談員  
・高岡向陵高等学校非常勤講師)



# アレッセ高岡（2010年～）

高岡外国人の子どものことばと学力を考える会

Associação do Apoio Linguístico e Educacional para Crianças Estrangeiras→ALECE高岡

「高岡市」だけでなく県西部の全ての市+富山市からの生徒（主に中高生）を支援

## 学習支援事業

- 対面学習支援教室の開催  
（中学生以上）
- オンライン学習支援教室の開催（小学生以上）
- 多言語中学数学動画の制作・配信

## 教育情報支援事業

- 子育て／教育／キャリアデザイン関連の多言語資料の制作
- 高校進学説明会の実施
- SNS多言語情報発信
- 在日ブラジル人対象オンライン心理カウンセリグ・セミナーの実施

## 市民性教育事業

- 市民性教育講座の開催（全ての住民対象）
- SDGsフォーラムの開催
- フィルム・フェスティバルの開催（予定）

# はじめに

- + 「問題」は、子ども自身ではなく、あくまで子どもを取り巻く環境の問題（≡大人の問題・社会の問題）
- + 子どもたちが抱えさせられている「問題」は、**個（私）**だけでは背負いきれない
- + 散在地域かつ疲弊する地方
  - 子どもも支援者も**孤立**、支援システムの地域間**格差**
- + 公教育における「高校」のポジション？

# 富山県

■ 「外国人材活躍・多文化共生推進プラン」

■ 19,084人（県の1.82%）

射水市2.98%

高岡市2.14%

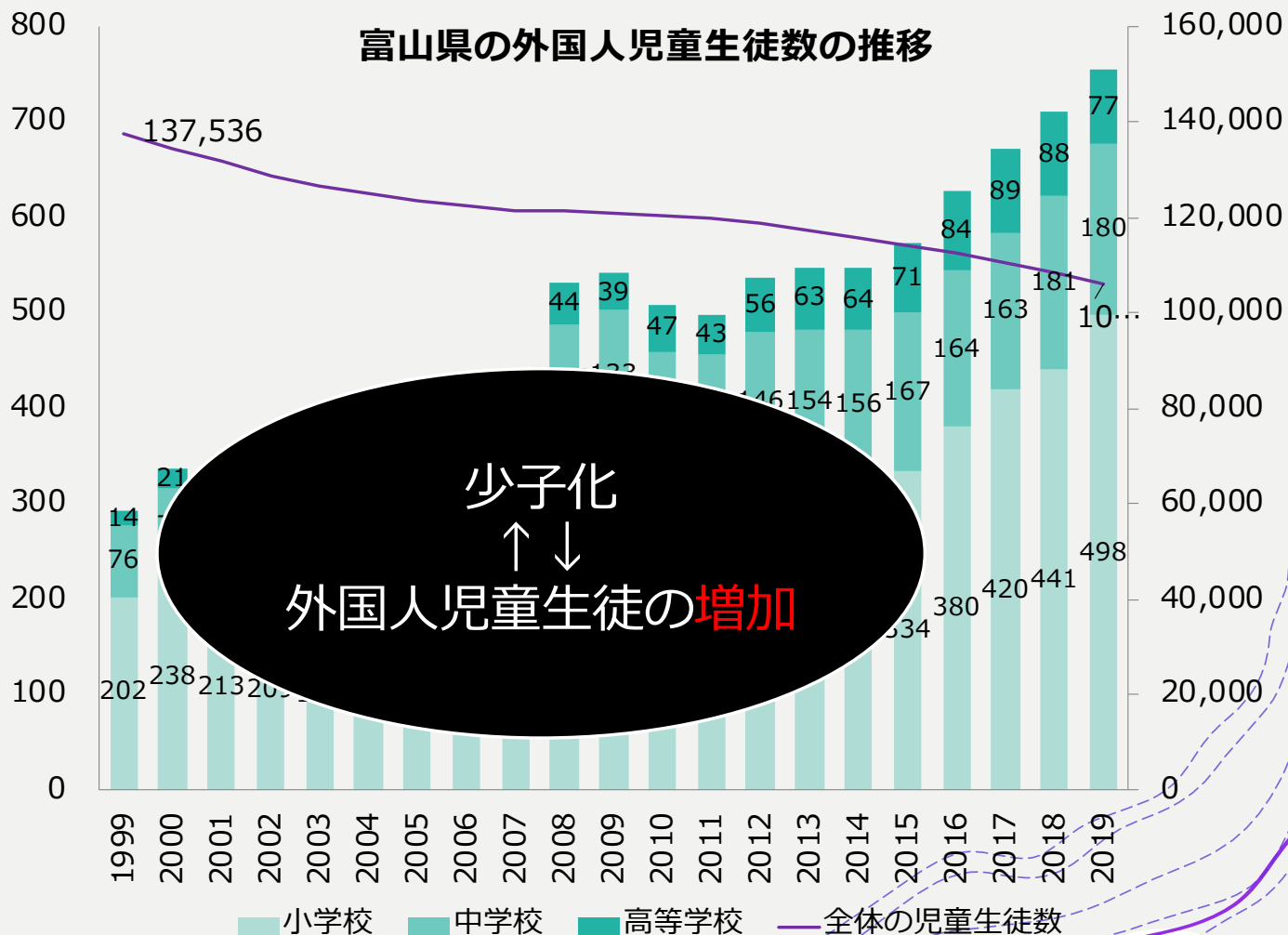
■ 小中学校：~~市町村立~~

高校：~~県立・私立~~

大学：~~県立・国立・私立~~

※国立高専や私立・国立の小中もあるが、それぞれ1校ずつしかないのここでは省略

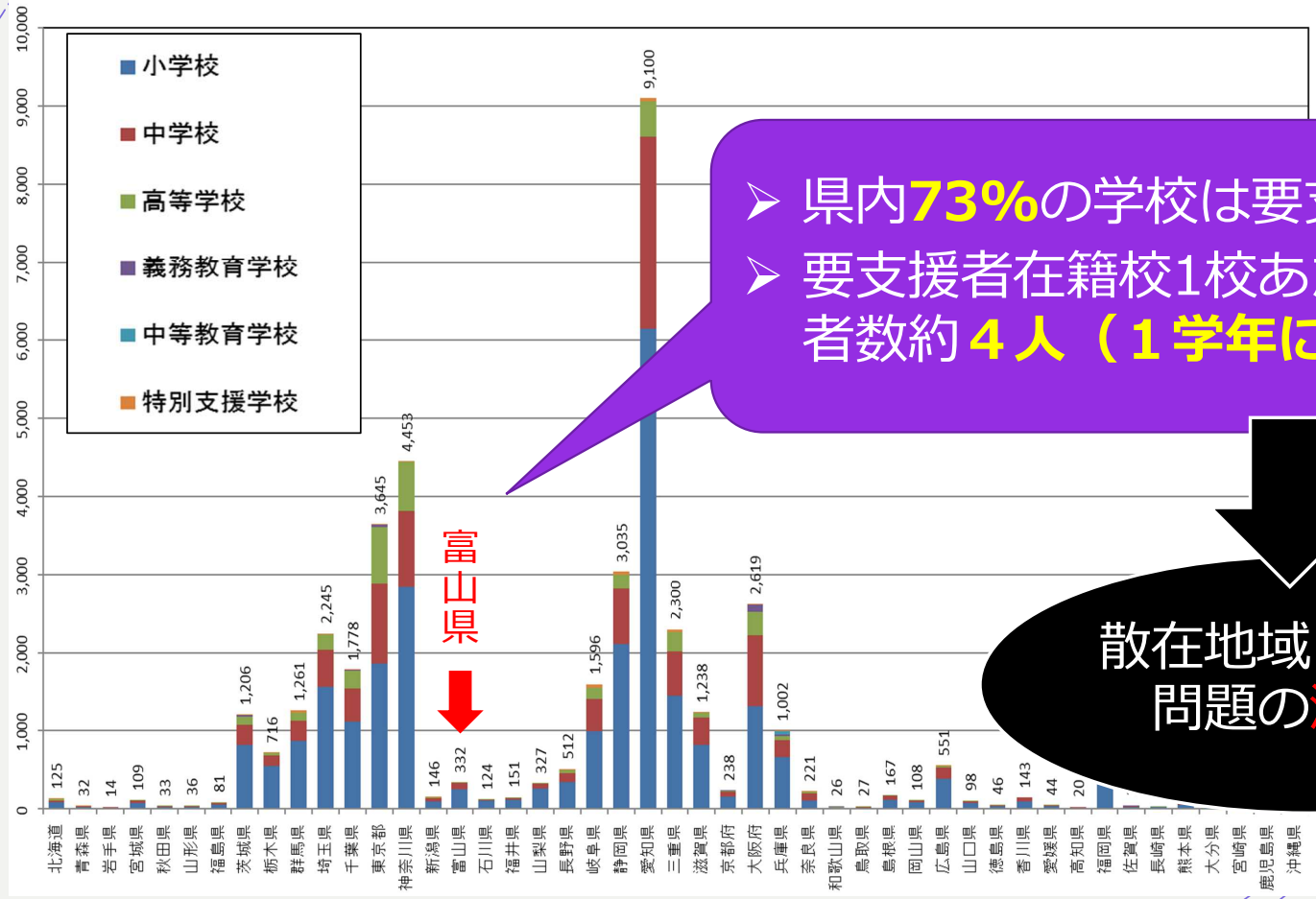
## 富山県の外国人児童生徒数の推移



少子化  
↑ ↓  
外国人児童生徒の増加

# 日本語指導が必要な外国籍の児童生徒の学校種別在籍状況（都道府県別）

出典：文部科学省「H30日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」（児童生徒数：人）



➤ 県内**73%**の学校は要支援者**0人**  
 ➤ 要支援者在籍校1校あたりの要支援者数約**4人**（1学年に**0.75人**）

散在地域における問題の**潜在化**

# 富山県の子どもたちの高校進学



- + 富山県の高校進学率は99.3%
- + 富山県の外国人生徒数：中学生180名→高校生77名 (公立44、私立33)
- + 富山県の日本語指導が必要な生徒数：中学生95名→高校生1名
- + 県立高校入試外国人特別措置  
(外国籍で入国6年以内、問題にふりがな)

地域間格差大

→県内では私立高校が受け皿に

経済力？

県教委？

事実上の「日本語ができるようになってから来てください」

# 富山県における支援状況

サポートしてくれる人はどこ？（要支援者も支援者も）

## + 学校内での支援

- + 日本語指導を行う加配教員の配置がある小中学校はごくわずか
- + 週に数時間のみ配置される外国人相談員・講師まかせ
- + ほとんどの高校には「日本語指導」そのものが認知されていない？
- + 夜間中学や民族学校はない

## + 学校外での支援

- + ボランティア教室がある地域はごくわずか（空白地域多）
- + 週1回または2週間に1回（1回2時間程度）

# 高岡市



財政再建中  
2016年市債残高 1128億円,  
年40億円の構造的歳出超過



市内唯一のデパートの  
閉店  
高岡大和2019年

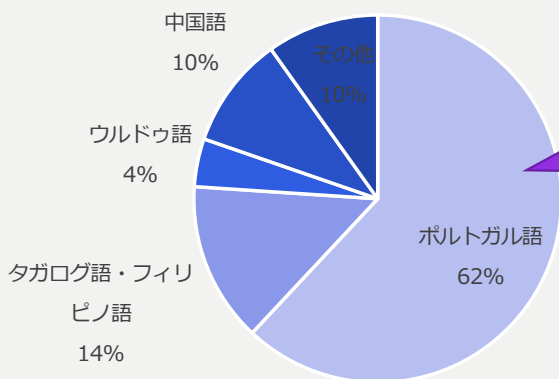


中心市街地の空洞化  
シャッター通り

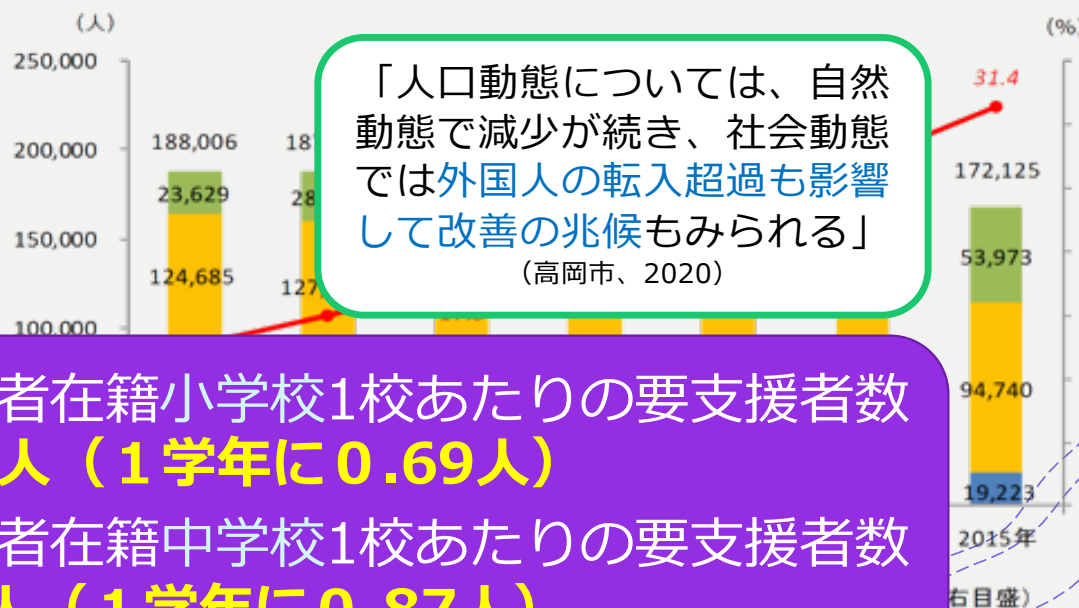


路線バス等の廃止  
公共交通不便・空白  
地域

- 「高岡市多文化共生推進プラン」
- 3,613人（市の2.14%）
- 県費だけでなく市費の外国人相談員も小中学校に派遣



高岡市小中学校の日本語指導が必要な児童生徒数（N=202）



「人口動態については、自然動態で減少が続き、社会動態では外国人の転入超過も影響して改善の兆候もみられる」  
(高岡市、2020)

- 要支援者在籍小学校1校あたりの要支援者数約**4.1人**（1学年に**0.69人**）
- 要支援者在籍中学校1校あたりの要支援者数約**2.6人**（1学年に**0.87人**）



# 市単位での支援の難しさ

- + 要支援者が少ない／いないので、学校全体で支援の体制を整えようという機運が生まれにくい
- + 相談員をさらに雇用する財政力は高岡市にない
- + 人材不足（通訳・翻訳者、日本語教育専門家）
- + 散在（距離）・公共交通機関の不足により、拠点が作りにくい（拠点を無理やり作っても、通えない児童生徒が多い）
- + 高校は市立でなく市外居住者も在籍するので、高校生は高岡市としての支援対象外？

# 地域の支援団体の目から見た課題

- + 学校の中が外から見えない  
(連携×、「専門機関」?)
- + 地域支援団体のマンパワー不足
- + 他市の地域支援も外から見えず (空白地域は?)、断片的な支援者ネットワーク
- + 地域のエスニック・コミュニティは「広範囲」または「ない」
- + 地域全体の「他人事」感 (そもそも存在を認識していない?)

「体制」が整っていない  
地域での成功例のポイントは、  
身近な日本人の「自分事」と  
してのコミット=運

# 高岡向陵高校と アレッセとの 関わり

- 
- 2015年 教員免許更新講習（青木担当）に向陵高校教員が参加
- 
- 2016年 交換留学生への日本語の授業（取り出し指導）  
日本の中学校から進学してきた外国ルーツ生徒へのサポート  
（放課後教室）
- 
- 2017年 放課後教室→国際部  
動画制作プロジェクトスタート
- 
- 2018年 日本の中学校から進学してきた外国ルーツ生徒への  
日本語の授業スタート（取り出し指導）
- 
- 2021年 「国語総合」「古典B」としての日本語の授業スタート  
（取り出し指導）

# 日本語指導（2016年）

- +対象者：日本語ゼロで来日した交換留学生（1名）の指導
- +形態：取り出し・マンツーマン
- +時間数：週2回（週3時間）
- +使用教材：『まるごと 日本のことばと文化』  
『エリンが挑戦！日本語できます』

「留学生」だけ？

# 日本語指導（2016年～2017年）

+対象者：日本の中学から進学してきた外国ルーツ生徒  
※参加者：11名（2016）、毎回2～3名

+形態：放課後教室（→国際部の活動）

+時間数：週1回（放課後）

+内容： 教科の課題  
日本語学習  
その他いろいろ

体系だった  
指導が困難

自由参加なので、日本語  
指導が必要な生徒が参加  
するとは限らない

ことばの力をのばして、羽ばたこう！

We are Students  
with Roots Overseas!!

教科の課題

ものがたい  
翻訳

「私」の  
プレゼン

外国にルーツをもつ  
生徒が対象です

敬語クイズ

新聞ゲーム

日時

毎週金曜日7限

場所

学習室1A


# 国際部×アレッセ高岡（2017～現在）

大学生

向陵高校  
国際部の生徒

他の高校  
の生徒

アレッセ高岡  
どうがせいさく  
動画制作プロジェクト



「小学校や中学校のどちゅうで日本へ来た子」「家で日本語を使わない子」のために、わかりやすい言葉（やさしい日本語+外国語（ポルトガル語・タカログ語・単語語・英語など）で中学校の数学が勉強できるインターネット動画を作ります。シナリオを作ったり、パペットを作ったり、カメラで撮影したり、音声収録したり、動画編集したり…、あなたの力を貸してください！！

「数学にがて〜」「日本語うまくないし」…そんなあなただからこそ、数学の勉強で困っている中学生の気持ちがわかるはず！！もちろん、外国ルーツの生徒も日本人生徒もどちらも大歓迎です。

がっきせんはん こうりょうこうこうない かつどうよてい  
2学期前半の向陵高校内での活動予定 ※変更の可能性あり

9月5日(木)	9月12日(木)
9月19日(木)	9月26日(木)
10月3日(木)	10月24日(木)
10月31日(木)	11月7日(木)
11月14日(木)	11月21日(木)

- ✓ 高岡向陵高校以外の生徒も参加します。ほかの学校の友人も誘って参加してOK！
- ✓ 「毎回は来れない…」という人、来れる時に来るのでOK！
- ✓ 「国際部に入るかどうかはわからないけど、ちょっと気になる…」という人、見学もOK！



# 日本語指導（2018年1学期）

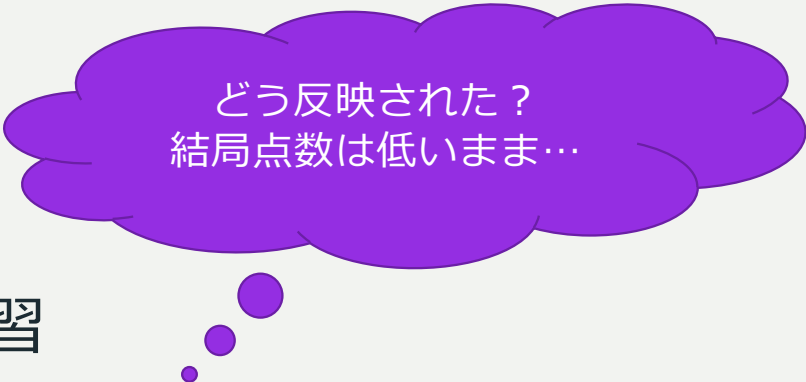
- +対象者：日本の中学から進学してきた外国ルーツ生徒  
5名（1年3名、2年2名）
- +形態：取り出し指導
- +時間数：週1回、2時間
- +内容：日本語基礎
- +評価：なし

時間数が少ない  
成績（単位）に繋がらない



# 日本語指導（2018年2学期～2019年）

- +対象者：日本の中学から進学してきた外国ルーツ生徒
- + 1～3名（学年別）
- +形態：取り出し指導
- +時間数：週1回、2時間
- +内容：日本語と教科の統合学習
- +評価：日本語の試験を別途行い、その結果を国語の成績として反映？



どう反映された？  
結局点数は低いまま…

# 日本語指導（2020年）

学年合同だと、教科と日本語の統合学習は難しい

+対象者：日本の中学から進学してきた外国ルーツ生徒  
海外からの中途編入者

1～5名（学年別 ※2020年は2-3年合同）

+形態：取り出し指導

+時間数：週1回、2時間

時間数は少ないまま

+内容：日本語基礎

+評価：なし

評価につながる授業を抜けて、評価  
につながらない授業を受けるモチ  
ベーション？

# 日本語指導（2021年～現在）

- +対象者：日本の中学から進学してきた外国ルーツ生徒 1～3名
- +形態：取り出し指導（1年は『国語総合』、2・3年は『古典B』の時間）
- +時間数：1年は週4回4時間（うち2回は日本語教育有資格者による指導）  
2・3年は週1回2時間
- +内容：日本語基礎
- +評価：日本語の試験を別途行い、その8割の点数を『国語総合』『古典B』の成績とする

想定していなかった生徒を  
途中から受け入れられない

不公平感？

日本語指導を高校の教育課程に柔軟に組み込んでいく仕組みと具体的な実践例の共有

## 高校における日本語指導の現状と課題

学校内外で安心して無料で使用できる多言語ややさしい日本語で教科学習をサポートするアプリやサイト

- ① 高校内に日本語指導に関する具体方針がなく右往左往
- ② 既定のカリキュラムに「日本語指導」を組み込む自由度が低い？
- ③ マンパワー・連携が足りない  
(高校は特に「教科専門」の意識が強く、高校全体での理解者・協力者は少ない)
- ④ 日本語以外の教科の授業で母語を活用したICTの活用は限定的・試行錯誤
- ⑤ 日常会話は問題ないが学習支援が必要な生徒（学習言語能力の不足による）へのサポートはない

不登校・発達障害等の支援体制はある→拡張？

# 高校における日本語指導以前の 現状と課題

経済的なサポート？

在留資格、大学等  
で利用できる特別  
入試情報、英語圏  
以外の進学・就職  
などの情報ポータ  
ルサイト

- ① 経済力の弱い日本語指導が必要な生徒は進学できない
- ② 外国ルーツの生徒・日本語指導が必要な生徒の受け入れやサポートに関し、高校設置主体の違いを超えた県全体としての共通認識や協力体制がない
- ③ 日本語に限らず文化適応等様々な課題について、本人も学校も保護者もどこに相談していいかわからない  
アドバイザー  
コーディネーター  
通訳者の確保
- ④ 高校卒業後の進路について、知識不足で具体的なアドバイスができない
- ⑤ 教員一人ひとりの知識・意識の問題  
教員養成・研修

# 最後に言いたいこと

- + 国籍や言語等の違いを受け止めた上で地域の形成主体を育てるという学校教育の意義を明確に打ち出してほしい（「日本語を母語とする日本国籍者のための学校」からの脱却）
- + 外国ルーツ青少年のライフコースという長期的な視点をもって高等学校における支援を考えてほしい（外国ルーツの青少年が日本の高校で身につけるべき能力とは？「日本人」の育成からの脱却）
- + 外国ルーツの子どもの教育保障を個人任せ・学校任せ・自治体任せにしないでほしい。  
（学校設置主体に関わらず県・国などできるだけ広域の単位が各地の情報やリソースをまとめあげて適材適所に分配できるように）
- + 「外国人生徒数」や「日本語指導が必要な生徒数」のような数字だけで施策の有無やサポートの質・量を決めないでほしい（自治体や学校単位ではなく各生徒単位で平等に必要なサポートが受けられるように）

## 格差の解消

日本人⇔外国人  
自治体間・学校間  
ラッキーな人（出会い有）  
⇔そうでない人